

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371401288
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋鳴海の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 22 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371401288
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋鳴海の家
所在地	愛知県名古屋市緑区大形山901番の2 (電話)052-899-5522

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	9月22日

【情報提供票より】(19年6月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6	

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	2階建ての全階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	54,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	入居申込金 100,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300		円	

(4)利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	17名	男性	8名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79歳	最低 62歳	最高 91歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科 ソフィア歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街にある2階建てのホームである。庭の畑には花や野菜が手入れされ、利用者の楽しみやこれまでの生活を思い起こす機会として活用されている。対面式キッチンからは、リビングで過ごす利用者を見守る事ができる。ホーム廊下はどこでも車椅子でスムーズに移動できる広さがあり、エレベーターは緊急時にストレッチャーが入るような特殊な造りになっている。浴室には身体機能が低下しても入浴できるよう特殊浴槽が設置されている。職員は利用者一人ひとりの人格や個性を大切に考え、家族のように協力し合う関係を築く努力をしている。自己評価が全員で取り組まれた事からもさらに充実したグループホームにして行こうという気持ちを感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義は全職員ではないが理解している。自己評価は先に館長が作成してそれを全職員で項目毎に話し合い完成している。今後のサービスの質の向上に向け、話し合いもされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は実施されていない。9月又はおそくても10月開催を予定している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に職員が話しやすい雰囲気を作り、意見や要望を聴いている。他に相談用紙を設け言い難い意見や不満も出してもらえる様に工夫している。それを職員が目を通し話し合い、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在紙芝居などのボランティアの受入れや散歩や買い物などで近隣の人と挨拶や会話をするなどは出来ているが、地域行事の参加は出来ていない。今後、町内会に入会しそれを機会に地域行事参加を徐々に進めていく予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のホームの理念は(ゆっくり、楽しく)である。事業所独自の理念(あなたが居て、わたしが居る、協力しあえる仲間と共に、温かく明るい生活を送る・・・)職員は一人ひとりの人格を尊重しゆっくり、楽しく生活が出来る様に日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やリビングに掲示されている。職員は会議などで理念について話し合い、意識を持って業務を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には参加できていない。しかし近隣の人は散歩や買い物などで挨拶や会話をしている。今後町内会にも入会して、地域行事へ積極的な参加を望んでいる。	○	幼稚園との交流や地域の行事に積極的に参加して、気軽にホームに遊びに来てもらえる様になる事を期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価である。急きょ館長交代があり、自己評価は前館長が試案を作成しており、それを会議などで項目に関して職員と話し合い作成している。全職員ではないが自己評価の意義を理解し、今後のサービスに活かす取り組みをしている。	○	全職員が自己評価だけでなく、外部評価の意義を理解し具体的な改善に取り組んでいく事を期待する。
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施されていない。現在、民生委員の人にも協力の依頼をしており9月又は10月までには実施する予定である。	○	早急に具体的な物にして、推進会議を行い、それをサービスの質の向上に反映されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前館長が市町村へ出向いてホームのケアサービスの取り組みなどの説明をしている。	○	今後も継続してホームの取り組みを伝え運営の実態を把握してもらい助言を得て、共にサービスの質の向上に取り組まれる事を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に新館長が挨拶をしていた。家族の来訪は多い人で週2, 3回、少ない人では月2, 3回ある。その時に日常の様子や健康状態を伝えている。又緊急時は随時、電話などで報告している。金銭については個々の小口現金出納帳に記入し家族にサインをもらっている。	○	職員の異動については、事前に家族にお知らせする等の配慮を望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当が明示されている。家族の来訪時に職員が話し易い雰囲気を作り、意見や要望を聞いている。それを全職員が目を通し話し合い、運営に反映させている。又相談用紙も設け、言いにくい要望や意見も出してもらえるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急きよの館長交代となっていたが、新館長も以前ホームに在籍していた事や職員の配慮により利用者の不安な様子は見られなかった。	○	職員の異動については、事前に家族にお知らせする等の配慮を望む。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は定期的に行っている。法人は今年から職員が研修参加及び自宅学習等のレポートを本部に提出すると補助がみとめられる、研修補助制度を設けている。	○	今後も法人内だけでなく、外部研修への積極的な参加の体制作りを希望する。又パート職員にもやる気を起こさせるような配慮を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	緑区の他事業所との月2回の管理者交流会に参加してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学する事から始め、職員が自宅に出向き利用者の生活歴や身体の状態を把握して入居してもらい、又すぐの入居の場合はホームに馴染む間、家族や関係者の協力を得てホームに遊びに来てもらうなど、不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が楽しそうにゲームをする姿や、職員の肩をもむ利用者の姿が見られた。支援する側、される側という意識をもたず、お互いが協力しながら、家族のように支え合う関係を築いている。	○	すべての利用者の個性、どう暮らして行きたいかと言う意向を把握し得意分野で力を発揮してもらう等、共に支え合える関係作りを望む。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関りの中で利用者の表情や会話から思いや希望を汲み取り、出来る事、出来ない事を把握して、出来るだけ本人の意向に沿う支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来訪時に家族から意向を聞いており、本人には職員が日常の会話の中でさりげなく聞いている。それが介護計画書に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎の見直しや、状態の変化があった際の見直しを行っている。本人や家族の要望を取り入れ、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入居前からのかかりつけ医療機関への通院等で、家族の対応が出来ない場合は、臨機応変に対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診は2週間に1度ある。他入居前からの医療機関の診察も受けられるよう家族と相談しながら対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして、重度化や終末期に向けた方針は決まっていないが、本人、家族の希望があれば、医師や職員と連携を取り安心して終末期を過ごす事ができるように支援する心がまえがある。	○	ホームとしての重度化や終末期に向けた方針を職員で話し合い安心して終末期を過ごせる様、そのための準備をされる事を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけや利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしていた。個人情報事務所の戸棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはある。編み物や短歌の好きな人、畑仕事の好きな人など個々に合う支援をしている。その他にもその人のペースに合う生活の支援となっている。	○	今後も利用者がその人らしく安心して生活が送れるよう工夫し、個別性のある支援を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考えながら、献立を決めている。利用者と一緒に収穫した野菜が美味しく調理されている。後片付けを職員と利用者で会話を楽しみながら、一緒に行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日準備している。銭湯を思わせる浴室や重度化に対応できる特殊浴槽もある。時間帯は13時45分頃からとなっている。本人の体調や希望により入浴してもらおう。又気の合う仲間同士が楽しみながら一緒に入浴することがある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日暮らしを共にする中で一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援している。掃除、食事の片付け、畑仕事、又は戦争の話など、昔話を懐かしそうに話される利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日散歩や買い物に出かけている。利用者でタバコなど個人的にほしい物がある時も買い物に職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はかけていない。ドア開閉時には音がする様になっている。職員は常に見守っている。一人で出かけようとしている利用者には、さりげなく声をかけて一緒に出かけるなどをして、自由な暮らしを大切にした対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員の協力を得て9月に避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方の訓練を行っている。又消火器・火災報知機・避難誘導灯の確認を10日おきに自主点検している。	○	利用者の状態を踏まえての具体的な避難訓練や消防署、地域の人びとにも参加、協力を得ながら、避難訓練を定期的実施する事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録されていた。野菜中心のやさしい味付けである。水分量については、医師の指示がある利用者については記録しているが、他の人についてはおおまかな把握をしている。	○	水分摂取量は利用者の体調変化を早期発見するためにも飲水量を把握し記録に残される事を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は新しく、南向きのリビングダイニングは開放感もあり、外の景色からは季節を感じとる事ができ。食事の時間には心地よい音と食欲をそそるにおいがし居心地の良い空間である。廊下、トイレ、浴室は十分な広さと安全面での配慮もされた造りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台、棚が設置され、利用者の状態にあったベッドがおかれている。使い慣れた日用品や大切にしている置物、本人の若い頃や家族等の写真が飾られている。落ち着ける居心地のよい場所である。		